

## Jim McLean

ジム・マクリーン



片山晋呉プロや伊沢利光プロをコーチし、日本で成功を納めているティーチングプロの江連忠を指導したジム・マクリーン。日本ではデビッド・レッドベターやブッチ・ハーモンに比べるとやや知名度は落ちるが、彼等とともに世界トップ3のティーチングプロとしてアメリカでの評価は大変高く、全米各リゾートにあるゴルフスクールは大盛況。94年ティーチング・オブ・ザ・イヤーを受賞。トム・カイトをはじめ、多くのトッププロを生徒に持つスーパー・インストラクター、ジム・マクリーンに独占インタビューを試みた。

### プロフィール

1950年シアトル生まれ

ヒューストン大学卒業

ドラール・リゾートのディレクター・オブ・ゴルフ

全米6ヶ所にジム・マクリーンゴルフスクールを開校

**それではまずあなたのティーチングプロになったきっかけを教えてください。**

ヒューストン大学でオールアメリカンのゴルフチームに所属していました。ファジー・ゼラー、ブルース・リツキー、ブリティッシュオープンに勝ったビル・ロジャースと同期です。大学を卒業してから2年ぐらいミニツアーを回っていましたが、74年にQスクールを落ちて、ニューヨークのウェストチェスターCCでティーチングを始めました。もう27年もティーチングをしていることになりますね。

## ティーチングのノウハウは先輩から教わったのですか。

そうですね、偉大なレッスンプロやプレーヤーが手を貸してくれました。ケン・ベンチュリとは10年間にわたって交際がありましたし、ジャッキー・バーク、ベン・ホーガンの弟子だったガードナー・デキンソン、クロード・ハーモンとか他にも大勢ね。あの当時はいろんなコーチに会いにアメリカ中を回ったりして、一生懸命でしたが楽しかったですよ。有名コースのヘッドプロもやりました。スリーピーホローというコースでは、日本の駐米大使や亡くなったソニーの盛田会長もメンバーでした。忙しい方だからめったにコースには来なかったけど、ご夫妻ともにゴルフがお好きでしたね。

## それはすごいメンバーがそろっていましたね。

### では、ゴルフスクールの開設について聞かせてください。

1985年にニューヨークのゴルフ好きをアメリカ各地のリゾートやカリブ海に連れ出してレッスンしたことがきっかけにスクールを開設しました。その後1991年にジミー・バラードというドラールの有名なコーチにスカウトされて、本格的にゴルフスクールビジネスに入りました。そしてドラールからラ・キンタ、1994年にはPGA ウェストとスクールを広げていって、今はラ・コスタやミシガンのグランド・トラバース・リゾート、ウェスタンヒルズなんかにもスクールを開設しています。

長い実績と経験を重ねて、今では複数のゴルフ誌やCNNで全米1のゴルフスクールと評価されるようになりました。確実にゴルフが上達し、このスクールに来て良かったと100%満足してもらえるように、スタッフみんなで努力しています。だからリピーターもたくさんいますよ。

内容的には1時間のレッスンから3時間のプロセッションまで、いろんなコースをオファーしています。一番人気のあるのは3日間のコースで、これにはPGA ウェストやラ・キンタ、ラ・コスタ、ドラールなどのチャンピオンコースでのラウンドも含まれています。常にNo.1のゴルフスクールであり続けるというのが我々の目標で、実際目標には近づいていると思います。ベストでいると言うのは簡単だけど、実際はそうではありません。

## メンタル面も教えるんですか？

ゴルフの核心的な部分を4つに分けて「25%セオリー」と名付けています。飛距離中心のロングゲーム、パットやチップングのショートゲーム、どんな局面でもリラックスできる能力のメンタルゲーム、そして身体のフィットネスと、コース戦略の両面を含むマネージメントです。そうした基本セオリーに照らし合わせると、個々の生徒がどのレッスンに重点を置くべきか決まってきます。例えば初心者だったら95%はロングゲームに集中すべきです。ボールを前に飛ばせる、これが楽しい時期ですからね。いくらメンタル面が充実していてもボールを打てなきゃ話にならないですよ。でもツアープレーヤーともなるとメンタル面がもっと重視されます。

ジャック・ニクラウスはゴルフは50%がメンタル、40%がセットアップ、10%がスウィングと言いました。プレーヤーのレベルによって分配は違いますが、アマでも上級者になればメンタル部分はゲームの25%以上は占めることになります。だから、生徒を見るときにこの人はどの部分を矯正してあげればいいのか、ショートゲームだったらチッ

ピングなのか、パットなのか、それともコースの戦略がうまく立てられないのかなどを判断することから始めます。ゴルフコースでリラックスできない人が多いけれど、それはメンタルトレーニングで修正できます。

## ビジネスは順調に発展しましたか。

1991年に始めた時はコーチ6人でしたが、今では10倍の60人にもなっています。今ドラール校にはコーチが17人いて、アシスタントを含めると1校に25人ものプロコーチを置いています。大きなビジネスになってきました。常にトップクラスのスクールであるように、コーチ陣やスタッフも一流のメンバーをそろえています。すなわちうちのコーチは他のどのスクールよりもペイがいいんです。

## いいコーチも育てているわけですね。

はい、うちのコーチには週に1~2回のトレーニングセッションを義務付けています。新しい技術やノウハウと常に接して、どんなタイプの生徒が来ても、自信を持って教えられるようにです。用具についても新しい情報を常にインプットできるよう、1ヶ月に1、2回クラブデザイナーやメーカー、新しいスイング技術の開発者などのゲストスピーカーを呼んでセミナーを開催しています。

大手メーカーはそれぞれ年にいくつもの新製品を出してくるので、それを把握するだけでも大変な労力が必要です。業界で何が起きているのかわからないと、安くないレッスン料を払ってうちの学校に来る生徒に対して失礼だし、コーチは毎日が勉強ですよ。

## ところで、ご自身は西海岸と東海岸をどういうスケジュールで動いているのですか。

西海岸に来るのは1年に4週間ほどです。1月と2月、それと4月にラ・キンタとPGA ウェストに行きます。

## その時にはツアープロも教えたりするのですか。

レン・マティースや若手のロングヒッター、ジェームス・マクリーンとか、シニアPGAツアーの選手やバーナード・ランガーなど、いろんな人を教えますね。でもどちらかというと僕は学校の方に専念したいです。家族が東海岸にいるから、あんまりトラベルしたくないんでね。マティースは2ヶ月に1度はフロリダに来ます。

## レン・マティースは2002年の「ニッサン・オープン」チャンピオンですね。

ええ、あの後マティースはメンフィスでも勝って、オーガスタではプレーオフまでいったけどマイク・ウィアーに負けちゃいましたね。

## さて、読者向けにマクリーン流ティーチングノウハウを話してもらいましょう。

まず生徒が現在、個々のゴルフライフのどこにいるのか、それを把握することです。要するに初心者なのか中級者なのか、それとも上級者なのか、それによって教え方が違います。初心者は手や腕などの動きに特に注意を払い、

身体をあまり動かさないようにしてボールにクラブを当てることを教えます。中級者には体重移動とかインサイドヒット、ドローボールを打つことなどを教え、上級者になると身体全体の筋肉の動きを教えます。考えなくても自然に身体が動くようにするのです。

**初心者は往々にしてクラブのリリースについて理解していませんね。**

そう、クラブを放らないんですよ。上級者になるとやりすぎる場合もあるけど。

**ボディターンは重要ですか？リストを全く使うべきでないという人もいますね。**

それは違うね。クラブフェースの向きやスピードを感じるためにも手は重要な部分です。

**特に中級レベルだとレッスン書とかをいろいろ読んで、そう解釈する人が多いんですよ。**

ボディターンを考えるのはプロ級のゴルファーになってからでいいと思いますよ。自分がどのレベルのゴルフをしているのかを知った上でスウィングを作らなきゃね。

**具体的にスウィートスポットでなかなかボールを捉えられない人にはどのようなレッスンをするのでですか？**

それはスウィングの時に身体が動きすぎるからで、基本スウィングをマスターしていないからです。僕のところでは、今まで習得したものをすべて壊して、1 からスウィングをまた積み上げていったりもします。そうしないとスウィングの大小にかかわらず、いつもクリーンにボールを捉えられるようにならないからです。

**ハーフスウィングとかそういう小さなスウィングから始めることにこだわるんですか。**

そういうことです。さらにアベレージゴルファーには、ビデオやPCを特定の場所でスウィングの動きを止めて分解し、そのポジションをアナライズするようコーチを指導しています。そうすることで、もし生徒が基本と全然違う軌道を描くスウィングをしていたら、そのスウィングのどこを直さなければいけないのか分かります。他校のコーチの中には、スウィングの点を結んでこの動きを止めろとか、こう直せとか言うのは無理に近いので無駄と言う人もいますが、それじゃあビデオを使う意味がありません。うちではコーチが生徒一人一人のチェックポイントをレビューして、スウィングを判断した上で指導を始めます。またうちのコーチには、生徒にはいつも何か課題を与えて、一人でも練習ができるようにしてあげることも大事だと言っています。

**それでは今のPGA ツアーについて、意見をお聞かせ下さい。ドライバーで300 ヤードは当たり前、コースのトータルヤードは7300 ヤード級になってきていますが・・・。**

それはあまりいい傾向とは思っていません。ゲームの面白さが最大級に生かされないからです。コースがどんどん難しくなって、アマチュアが回るには時間がかかりすぎるし、プレーフィーだってどんどん高くなるでしょう。こんなにたくさんゴルフ場ができてフィーは安くなりませんよね。でもたくさんコースは損失を出しているんです。ゴルフ業界はテクノロジーを優先しすぎた結果、難局を迎えてしまいました。皮肉なことなのですが、ゴルフが上手ければ上手いほど新しいテクノロジーが役に立つんです。スウィングスピードが時速 150 マイル以上も出るようなゴルファーが最新のクラブを持ったら、それは完璧に武器になる。でも時速 75 から 80 マイルくらいのアベレージゴルファーにとっては全く意味が無いんです。1950 年代のマクレガーのドライバーで 70 年代のボールを打っても、最新のクラブとボールで打っても、アベレージゴルファーの腕だと、多分ボールは同じようなところに転がっていると思いますよ。差があったとしてもほんの少しです。ところがプロの手にかかると、70 年代のボールと今のボールでは 30~40 ヤードの差が出るんです。今のゴルフコースは、みんなそういう若手トッププレーヤーに標準をあわせて作っているといえます。それは危険なことだと思いますよ。伝統ある素晴らしいコースが時代遅れと言われ始め、こぞって難コースに作り変えています。平均的なアマチュアゴルファーにとっては、そんなコース難しいだけで楽しくないでしょ。

**アベレージゴルファーにとって 7000 ヤード以上あるコースは難しいですよ。**

6100 から 6200 ヤードくらいが適当だと思います。

**最近の PGA ツアーのトーナメントは、ドライバーの距離とパターだけで勝負しているようなものですからね。**

そう、アマチュアだけでなく今ではプロでも距離の長いコースで実力を発揮できない人達がありますよ。昔は技術で勝負をしたけど、今は飛距離がすべてになってきた感がありますね。

**以前は 250 から 280 ヤードのドライバーを打てれば充分だったけど。**

そう、昔は 300 ヤード打つのはすごいことだった。今じゃ 400 ヤードに届きそうなくらいですよ。

**ジュニアゴルファーに悪い影響を与えないかが心配ですね。**

**それでは、最後に日本との関わりについて、お話下さい。**

**江連忠コーチの先生だったということで、日本で一躍有名人になりましたね。**

そうですね、彼は熱心ないい生徒でしたよ。ゴルフスウィングをアナライズするのがとても上手かったです。ひと目見てスウィングプレートの形や位置、ボディポジションなどを分析できました。

**3 年間くらいレッスンのノウハウを教えていた？**

そう、マイアミで 3 年くらいね。彼が日本に帰ってから連絡をとりあって、一緒にビデオを作ったりもしました。

**江連コーチは片山晋吾プロのコーチとなってとても成功しましたね。片山プロにも会ったことはありますか。**

もちろん、特に去年は日本でよく会いましたね。オーガスタでも会ったし。

**日本人とアメリカ人は体型的に違うので練習方法も違うのでしょうか。**

いや、体型は人種にかかわらず様々だから。それに体型だけじゃなくて柔軟性とか運動能力とか、いろんなことが個々で違うので、それも含めて分析した上でコーチしなければなりません。でも基本となるスウィング動作は共通理解するべきです。そこにリズム等他の要素が加わって総合したスウィングを作るわけです。

**あなたのスクールには日本人の生徒が何人かいると思うのですが、将来性のある生徒はいますか。**

それは何人かいます。日本人はラ・キンタ校に多いですね。

**これからもアベレージゴルファーを教えることに情熱をそそいでください。**

ええ、特にジュニアには力を入れたいと思っています。僕のスクールは年間 65 試合もやっている全米で 2 番目に大きいジュニアトーナメントのスポンサーもしているんですよ。

**それはウェストコーストでも開催しているのですか。**

もちろん、TEE UP の読者も興味があるんじゃないかな。カリフォルニアでもアリゾナでもやっていますよ。

**なるほど、それはおもしろそうですね。**

**今日は忙しいスケジュールの合間をぬって弊誌のインタビューに応じて下さりありがとうございました。**

写真協力: ジム・マクリーンゴルフスクール

ジム・マクリーン ゴルフスクールについての詳細は、[www.jimclean.com](http://www.jimclean.com) をご参照下さい。

この記事はティーアップゴルフの以下のページ <http://www.teeupgolf.com/issues/54/54-fairway-talk.php> に掲載されています。